

愚得隨筆

和書門			
一七二五九	二二二	一	九
函號	架	冊	類
四	八	冊	架

內閣文庫			
一七二五九	二二二	一	九
函號	架	冊	類
四	八	冊	架

武備兵法

武備兵法

內閣文庫			
番號	和	17259	
冊數	14	(2)	
函號	212	39	



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Handwritten text in vertical columns, including a red square seal impression. The text is faint and partially obscured by the paper's texture and creases.

Vertical handwritten text on the right side of the left page, possibly a date or a specific entry.

愚得隨筆卷二

刀欵類二

目錄

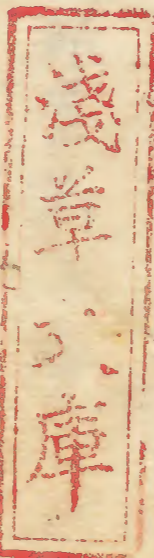


鞘卷圖

腰刀

打刀

赤木柄



聖柄刀

馬尾柄

眼着 合口 喰出 小刀 中眼指 箆刀

馬手指 少刀

鐔 分銅鐔 菜鐔 染鐔 煉鐔

シトキ回

目貫 峯 狂中金

筭 筭名所

火打袋 銀劔

愚得随筆卷二

日下部景衡集

刀劔類

鞘卷 見附考

愚按鞘卷或^ナ左^ウ者^キ卷^ニ作^ルキ^ナ三^ニ鞘^ノ間^々ヲ^カ卷^ステ^スル^故ニ^ニ鞘^卷ト^云是^ハ腰^刀之^シ土^佐光^信力^画シ^職人^尽ノ^繪ニ^サヤ^卷切^{アリ}其^体今^ノ刺^シ鞘^作ル^様子^之佐^奈田^与市^力指^アケ^雲透^ニ見^レハ^鞘卷^ノリ^リ形^カケ^テ鞘^ナカ^テ扱^タリ^ト尺^ハ太^刀ニ^シリ^形下^緒アル^ハキ^ニアラ^サレ^ハ腰^刀

タルヲ知ヌハシ古キ鞘卷ヲ見シニキサニ鞘ヲ
卷テヨシリニ穴ヲアケ三寸斗ノ藍草ヲ通シ
緒ニス是ヲ犬マ子キト云下緒ヲ通シテ留ル
メナリ

○御刀鞘卷下緒 見附考

○其後太刀ノ鋒三寸斗打ヲレテステ、ケリ腹ヲ

切ニト腰ヲサクレ氏サヤマキヲチテ無リ亮

○左右卷 庭割往來

平家物語

○騎馬御供ノ時ウラ打ト云テ大口セタ、レサヤ

卷ノ刀サスハシ 三俊一統

○刀ハサヤ卷サケヲハヒキメサケヲ 宗五記

忠盛見トカメテ物イハス一尺三寸ノ鞘卷ヲ拔

キ手ノ内輝ク様ナルヲ繫ノ髪ニスハリスハリ

トカキチテハ盛衰記

白鞘卷

愚按白太刀ノ例ニノ柄ハ白鞘カケタル鞘卷ニ

近世白鞘カケハナシ目貫打タル小照差ト云モ

ノ白鞘卷ニ筈ノ中ヨリ白鞘卷取出 義經記

始ハ水干ニ立上ホシ白サヤ卷ヲサイテ舞ケ

ハ男舞トリ申ケル中頃ヨリホ、ウシカヲノケ

ラレテスイカニハカリ用ヒタリサテコソ白拍
子トハ名付ケシ平家物語

黒鞘卷

愚按黒太刀ノ例ニテ柄サヤク口ク又リタル鞘
卷歛盛裏記ニ黒漆ノ鞘卷

忠盛朝臣黒鞘卷ヲ裝束ノ上ニ横夕ハ指テ支度
ハカリナキ体ニテ腰ノ程ヲ差帷夕ル様ニシテ

柄ヲ人ニヨ見セケル盛裏記

御劔鞘卷付何物更又於曰御劔鞘ニ有五六寸許
物卷付不知何物事資仲卿自撰進昏四卷云故大

納言命云昔三條院御宇時為殿上人參内自無明

門主上御千殿上御倚子予謹テ跪候地上仰云可

昇候小板敷者仰云御劔鞘有被墮付之物是何物

哉汝有所聞乎予奏云至愚之身難知如此更仰云

猶可申者奏云不承慥詔但或人申云若是御幸櫃

鑑歛者天氣有感後日景理朝臣相語曰主上仰云

我問秘事衆人不知而ルヲ資平之所申已相叶尤

所感者抑件鑑事右相府仰云又在清慎公ノ御

口傳又江左大熟說曰神奎宮鑑鑲宝劔之組鑲篋

之由見延喜御日記是秘事也非普通之御說

江終抄

守刀見附考

○行成イトサハカスレテトノモツカサメシテカ

ウフリトリテコヨトテカウフリマモリ刀ヨ
リカウカイヌキイテヒンワク口ヒ寝覚記

○白キ大口トカラヲリ物ノヒタレ召シシキタ

ハト云腹卷ノ餅地ノ錦ニテワサヤツタル守

刀金作ノ太刀ハイテウスケシヤウニマ丑ホリ

ク作り髪夕カクユイアケ義経記

○若居誕生ノ間代々ノ佳例ヲ追テ御家人亦御護

刀ヲ被召又献御馬東鑑

ヒ首ヒモカク子后母兄狹穂彦王謀反欲危社稷因伺皇后

之燕居而語之曰願為我殺天皇仍取ヒ首授皇

后曰是心自佩于袖中當天皇之寢迺刺頸而殺焉

日本記
垂仁帝記愚按近世ノ懷叙ナト云モノ權輿ナ

ルハシ

○尸カヂノニヒキニテツカサヤマキタルマモリ

刀ヲワキニサレカクシ大ニエノ中ヲヌケ出テ

スケウ子ウレ口チカク子ヲイヨル曾我助語

菊作刀 ○楠木兵庫ハ白ツトキ帯刀形見雷メシ菊水ノ

カヲ右ノ手ニ持袴ノ腰ヲ押ワケテ自害セント

久 太平記正成首送故郷

懐叙

○吉江小四郎鑑ヲ以テ脾骨ヨリ丸ノ乳ノ下ハ突

徹ス突レテ鑑ニ取付懐ニ指タル打カテ板シト

シケル如ニ吉江力中間走寄鑑ノ鼻ヲ返シテ引

落ス同昏師直以下被誅事

○柄鞘皆金ニテ打タ、ミタル刀ニ帟ノ皮ノ火打

袋ヲサケ太平記公武榮枯

○与帟刀ヲ持揚テ雲透ニ見レハサヤ卷ノクリ力

夕カケテ鞘ナカラ握タリケリ鞘尻クワヘテ又

カレトトシケレ氏連ノ極ノ悲サハ岡部弥次郎

力首切タリケル刀ヲ不拭サヤニ差タレハ血詰

シテ板サリケリ盛衰記石橋合戦

鞘卷之圖

見附考

源義家朝臣物

金具不殘銀目貫
卷龍下緒犬マ子キ
藍草笄小カアリ塗
朱柄鞘トモニ



犬マ子キ

○出雲振根擊第入根而殺之故時人歌之曰抑勺毛
多菟伊頭毛多難流餓波難流多知菟頭羅佐波摩
相催微那群珥阿波礼日本紀曰椰勺毛
多菟八雲立之伊頭毛多難流餓出雲梟師之波難
流多知佩太刀之菟頭羅佐波麻积ハワラサヤマキ菅鞘纏之言上
古以葛纏太刀之柄鞘以漆塗上今鞘纏之體之佐
微那群珥差成之按ルニ今ノ藤柄欵

○浦人ヲ一人諾ヒ寄テ白鞘卷ヲ取セテヤ殿白ノ
島へ渡ス瀬ハ無力教ハ玉ハ悦ハ於モ申サント
云ハハ浦人答テ云盛衰記盛個渡藤戸

腰刀 見附考

愚按ニ服指ト迄也云リ之服指ト云言バハ明徳
ノ頃ヨリ見ヘタリ腰ニサヌエハ腰刀トハ云今
モ腰ノ物トハ云ニ

武田自ラ腰刀ヲ取テ行平ニ与フ

○春日刑ア三郎負行水底ニ沈ミ訖命ヲハラレト
ス諏方明神ニ祈念シ腰刀ヲ取テ申甲級ノ上帶小具
足切良久ニテ僅ニ淺セニ浮出東鑑

○引但テ落重リ腰刀ニテ指違耻有侍二人失ヒ盛長記同

○熊谷ハ腰ノ刀ヲ拔出ニ既ニ頭ヲカハントテ内

○ 曾ヲ見ケレハ十五六斗ノ若上稿薄気状ニ金ク
口リ日昏

○ 鞆ノ前端ニ攻付ツ内曾ニ手ヲ入テ七寸五分
ノ腰カヲ拔出シ日昏

○ 出羽守源存頼白髪ニ帽子カワキテ夕エノ直垂
小袴ニ九寸斗ナル腰カノツカニクス子糸巻ヲ
ル腰ツホニサシテ鷹ヲ居棲之 古事談

打刀 見附考

愚按凡カヲ鑄ヲ打ト云是ニヨリテ太刀カ打助
ト云ナリ

○ 佐貫四郎太夫御旨ヲ伺ヒ面縛之処懐中ニ一尺

余ノ打カヲ帶殆ト如寒水

○ 黒草威ノ腹巻ニ打カ前垂ニサシ 盛衰記

○ 金武ハカヤウノ剛ノ者打カニテハ叶ハスニテ

○ 鞘ニサシ小長カヲ莖短ニ取寄合サシトシケ

ル日昏

○ 萌黄白ノハラニキ着打カ前垂ニサシ 平家物語

○ 打カトハ具足ノ上ニ指スチイサキカニ 大諸礼

○ 公方様御打カハイワレモサヤフク口ニ入候赤

銅装束カナ鐔柄頭鑑クリ形ヤキ付御目貫マハ

ノコトシ丸ニ桐ヤギ付即下緒モ半下緒打様モ
 マハノコトク巻糸茶針浅黄定ラス日昏
 ○打刀装束ノシワケ唐木鞘カイラキタシサメア
 イサメヒノサヤカワヤリ鞘塗黄ウルシニテ梨子
 地沃懸地ウラノシ付金具ホナリ
 ○工カ見附考ハ脚キンセイニテ候去ナカライカヤウ
 ナルヲ工カ子刀ト申スヘキワト候トシ折金柄
 口栗形ナトイロハタルニテ候鐙柄頭目貫筭小
 刀插工カ子候ハンスルカコカ子刀タルヘキ欵
 柄ウチサメ鞘ノシツケ又カナリ目貫筭マテコ

カ子ナルハ中々サ夕ニサ夕ニ及ハス候イニシ
 ハハサヤウナル刀ヲハサモトアル人ハサ、レ
 候ハス或ハ小者ハ房ウナトサシケルカフキノ鞘
 カイラキサメサヤナトワカキレユハサ、レ候
 ヒシワレモ殿中ハ見及申候ハスヲシサメ又
 鞘較ナトカケタルヲハトシヨリタル人ハサ、
 レ候ヒシ又公方様ノ脚コニ物ハサヤスリヲト
 シ柄草コシモトコカ子鐙柄頭同前ワレヲク口
 ヲスラレ候ノミイレワカタチコカ子ハ、キ同
 前脚目貫丸ノ内ニワフ桐焼付即筭赤銅ト、焼

付又ビノ、尾右ニ目貫ノコトクナル少キ桐焼付
候キリハワアリ御算ノサキヲ二三寸ヲキテコ
カ子ニテワキワキニワリナリ御小刀柄カ子リ
ハレアリ又柄鞘梨子地カナコ赤銅御算目貫前
ノコトシ又カウヤリ鞘ノモ御サ候ニ又普光院
殿不二御覽ニ御下白ノ時サレ候御腰物打金
獅子象形同前ニ足アリ鐙柄ニモ獅子スハリ候
柄鞘金具石タ、ミヲ金具ニテ入ラレ候寸モ少
コシナカラ御坐候タイカイ御腰物九寸八寸許
ニテ候カイクワモ御坐候又マヘニシルニ候ワ

夕リニテ候御下緒ヲハキヤノ糸又ハ紅トキヤ
ノイトニテ一寸マタラニカヌノカウナト打交
セモ御坐候ワルカラクレナイ下緒ハ見申候ハ
ス又若キ人ナトハ梨子地沃懸地ノ刀モサレ
候ノシワケウエノシワケナトハ近年人ノ御差
候モトハマハ申矣コトクニモノ房ナラテハサ
シ矣ハス矣伊セ下巻入道宗五記
赤木柄見附考
愚按是モ打刀ニ工藤祐佐カ曾我五郎時宗ニ送
リシトイフ刀相州箱根別當坊ニ今モアリ

○汝ヲ鷲尾三郎ト云ハ此圖ト同名ナレトキ
 人ナレハ夏カケシ兵今鳥帽子親ノ引手物トテ
 花隣木ノ管ニ白金ノ胴全入タル刀ニ麻毛馬ニ
 鞆置テ赤皮威甲冒小具足付テ結フ盛表記鷲尾
 ○腹巻ノ高紐切テ推ノテ直垂ノ紐トキクワ口ケ
 赤木ノ柄ノ刀指タルヲ拔テ取直シキリミナシ
 今ル兼久記
 聖柄刀レシカ
 愚按七寸斗ノ刀今イフ合口ノコトヲ鋸モナキ
 柄ヲ或ハ櫻ノ穉或ハ藤ニテ巻ウスキ溜ヌリニ

シタル古キ刀ヲ北國ノ高人サシ来リ聖柄ト云
 ハキニ禪門ナトノ帶刀歟
 ○生ノ衣裳短キニ白キ大口ヲ着玉ヒタリヒシリ
 ツカノ腰刀ヲサシ大ニ腹リタル体ニテ盛表記
 大納言音立
 ○相國ハ素緒ノ衣ヲ着尻切ハ手長念珠後手ニ取
 テ聖柄ノ刀サシ
 馬尾柄刀見附考
 愚接近世鞍櫛毛ヲ組テ柄ヲ巻類ナルハシ
 ○文覚管ニハ馬ノ尾組テ巻一尺余リナルカ盛表
 記

○文覚フトコ口ヨリ馬ノ尾テツカ卷タリケル刀
ノ氷ノヤウナル又キ持平家物語

○赤銅作ノ太刀ヲハキ一尺三寸アリケル刀ニコ
メニヤウナシニテヲモテサヤヲツミテムス

トサシ幾在記

○袴ノクハリタカクユヒシテウチテノ笠ヲキヒ

奉ル赤木ノ柄ノ刀ニタニタルアツキサシ日記

聖刀 ○ヒシリ刀 藻塩草

照指 見附考 合口 喰出 小刀 中照差 大照差

箴刀 馬手指

愚按上古ハ打刀腰刀ト云コレヲ明德ノ頃ヨリ

照差ト云ト見ハシ始ニ今ニ至リテハ其中ニモ

鐔ヲ打シヲハ喰出シトイヒ一尺八寸キマテハ

中照差ニ尺ヨリ上ハ大照差ナト云一尺八寸

惣テカト云シコ小刀許ハムカシノ名残りテ今

モ小刀ト云近代甲冑ノ上ニ右ノ照ニ柄ヲ後ニ

ナシテ指シ馬手指トイフ是ハムカシ箴刀ト云

シヲ今ハ馬手指ト云歟

○篠作ト云御帶ハカビ刀ニニツ銘ト云御太刀ニ振添テ

ツハカセ給ケル茶研徹ト云御照差ヲサセ給

ノ 朗徒記

○ 山門ノ衆徒引立シタリケルカ南都ノ衆徒ハ面

々ニ照指入太刀ナント用意ノイサレハ板連テ

切テカハル大平元衆勝経時及^解争

○ 佐ニ木三郎盛佃小刀ヲ難ノ楚割ニ相副打敷ニ

ハハテ息小童ヲ以テ御宿所ニ送進ス盛スイ祀

籠カ

○ 良父有テ午筥ヨリ小刀也シテ日昏

クヒカキ

○ 御筥サキヲ二三寸ヲキテワキニツクナリ

御小刀柄力子クワシアリ

○ 正ヒラ刀クヒカキ刀三腰ニテコワサイタリケ

○ 高館舞

赤木柄

○ 祓経ケシサシノ始ニ折テ引出物コソナケレ

又ムナシカテレモム子ニナレ是ヲトテフトコ

コヨリアカ木ノワカニトウカ子イレタルカ一

腰取出シハコ玉ニコソトラセケレ為我物語

○ 御筥盛硯筆黒小刀江次茅

今ハガニシテ小ニ事ス小刀の世ハつらむは男と成り

夫木集 公朝

外ノ方と事ヤシキニシテありは小刀の世になんて社也い他

新六帖

紫柄古語拾遺曰至長告朝倉朝秦氏分散寄隸
他族秦酒公進士蒙寵詔聚秦氏賜於酒公仍率領
百八十種勝部糞鐵負調充積庭中因賜姓宇豆麻
佐註仍以秦氏所貢楮煙祭神釵首今信猶然リ

○ 測辺シタ、カナルモノニケレハ刀ヲ集レ進ラ

セシト引合ヒケル間刀ノ鋒一寸余リ折テ失ニ

ケリ測辺其刀ヲ投捨眼差ノ刀ヲ抜テ先ツ御心

モトノ辺ヲニ夕刀刺ス大平記兵ノ御宮薨御

少刀 見附考

○ 堂上ニハ直岳ニ少刀ノ一ナシ但陽明辰ニハ代

々御例トシテ少刀用ヒ玉ヲ武家ニハ供奉ノ時

少刀鞘卷太刀帶セラレ殿中出仕ニハ少刀ノ

用ヒラハ更ニ古ハ白太刀黒太刀ナト云太刀

帶セラレ、例粗武家ノ記ニ見ハタリ陽明辰ト

ハ近衛殿御家ニ昔大内裏ノ時近衛殿御家陽明

門ノ前ニアタリタリ故ニ陽明ノ御家ト申ナラ

ハセリ

○ 傳氏將軍以來代々御在京ノ間近衛殿ハ紅直岳

少刀被進ニ御例トシテ用信裝束要領抄

○ 或曰万松院殿後晴公御時惠雲院殿ハ植家公被

進紅真岳山刀ノ例

下借羊下脚刀箱卷下借東鑑

○刀ハサヤマキ下借ヲハヒキ又下借ヒウ子袋サ

リハカラス宗五祀

○公方様而打刀何レモ見附考鞘卷入炭亦銅裝束カナ鐔

柄頭ヨシリ又栗秋焼付脚目貢前ノ如シ丸桐焼

付脚下借モ半下ヲウチヤウモ前ノコトク卷急

茶付アサキ定マラス諸礼集

鐔分銅鐔葵鐔見附考染鐔日棟鐔日

愚按源見道周宗種曰日向国諸縣郡霧島嶽子ホカ

ノ嶽氏イフ地神茅三瓊々折昔降臨ノ時霧コリ

二国ノ脚柱アリト聞テ肥前長崎神人青山主計

須永弘同伴シテ元禄五年壬申七月中旬登山ス

他頂ニ小石ヲナラハ丈四方程丸秋石カキノコ

トリ見ユル中央ニ長サ二丈半幅ニ寸斗ノ鐔ア

リ銅鉄ニモ刀ヲサレカ子色こムカシハ何程ア

リケレ先ハ折シ鉢ナリ鐔ノ木ニ鼻高キモノ有

岐神ノ面氏云ハシ西方ニヤリ横田彦氏叔嶺ノ

鐔ノリハニ坐シテ四方ヲ泳シ時大藪大松原ナ

トニ大凡雨吹下ルコトリ四方鳴動シテ霧幕

ノコトクウチカヨム三人同志身体見ハス互ニ
手トキヲ取但鋒ヲ中ニシテ觀念ニ後ヲ誦ム声
モカレハナリ予ニ治ケリ永弘懐中ヨリ新穀ヲ
取也昔稻穂ノ所謂ヲ以テナリ後天時思霧晴
歸リレトニ按ルニ鐔ノルルハキ所ニ猿田彦ノ
面アルハ順カ和名抄ニ和名都美波叙鼻ト云
ニ合タルナリ細太カノ銚此制ニ似タリ今ハ分
銅銚ト云叙ノ鼻氏云ハキモノナリ分銅ニ似タ
レハ今世俗言ニ云ニ都美波トムカレハ云ヲ中
畧シテワバトイフ上下ヨリワハヲセムレハセ

又ワバトイヒシヲ言バノ長ケレハ是又中略ヲ
也。ワハト云ニ深鍔未詳深トイフモノハ米ヲ水
ニ浸シワキワツ子ニ餘シ神ヲ祭ニ用ユ是ニヨ
ラハ銀銚ニ石目打シヲヤ云ハキカ蝦グニシト
キ云モノアリ其形三寸斗丸鏡ノコトニ或ハ銀
或シノメナカシ中ニハ唐草毛ホリアリ尤右ニ
但ヲ青赤白ノ吹玉ノ借苗氏ニ丸ヲ九右十八
銀鍔尤右四吾国ノ寛永鍔コレハ鍔モ定メナリ
通シテ女ノ頸ニカクル飾ニ此鏡ヲ銚トセシカ
レトキニ似タル故ニ深鍔ト云カ近世藥直シト

道代鐔之作者

埋忠妙壽 京上作象眼
入寛永ノ頃

埋忠彦右工門 京象眼
入

貞家 伏見銀象眼
又真鍮象眼

貞信 伏見銀象眼
又真鍮象眼

久兵衛 大坂

大隅 江戸

定長 化州代首

山吉兵衛 尾州

九里傳兵衛 長門

同七九工門 京象眼
入

同忠次 京

貞長 伏見銀象眼
又真鍮象眼

加賀守 大坂

鉄人青木尉右工門 江戸

戸田彦九工門 尾州

正阿弥 曾ツ

駿河 備前代々首

河内権之丞 長門

法安 廣島

遠山又七 肥後

記内 越前龍形御号

阿波鐔 金象眼多

甚九工門 唐津

赤尾甚九工門 越前地
地ノカニ

吉尾吉兵衛 越前地
ノカニ

テシホウ 奈良
ノカニ

金山鐔 イワレモ古

漢南 象眼入

古キ鐔ハ赤小豆ノ色ナリ又鐔ニ上作下作アリ

厚キ鐔リニ一ノ一文字成カヨシ後スカニ有古

キハハノ耳ノスリテ一文字ニシタルモ有古キ

ハ必耳ニモ夕メ山ルモノナリ

目貫 峯 腫巾金

愚按近世ノ刀作りハ巾子クマ子際ヨリ三口伏
置目釘穴ヲウカチ別ニ目釘ヲモフク上古ノ太
刀作ハ皆目貫穴中程ニアリ刀名ハ又ヲ上ニニ
指表ニアリ太刀銘
ハ又ヲ下ニニテ目貫ノシレニテ目釘ニスル故
ニ相對スルナリ今モ古キ目貫ニハ古ヘテ存シ
タルアリ是ヲ阴阳ノ謂ナリト云ハ誤レリ昔ノ
鋒ヲ打破唯笛マテ打サカント打タリケレハ太
刀モコラヘス目貫穴コリ打ニケリタノム所
ハ腰刀許マ太平記ハ皆々目貫穴ニ作ルシ

目貫ヲ打ニ式アリ生出トテ草木ハ梢ヲ鋒ノ方
ハナク追ヒトテ畜類鳥類ハ頭ヲ柄先ハムクル
ナリ
○夜付ニハ太刀ヨリ柄長物ヨカルヘシトテ小長
刀ヲ信フ是ハ故丸馬頭髪朝ノ秘藏ノ物ニ銀ノ
小蛭巻ニ目貫ニハ螺ヲ透シテ義朝身ヲ不放持
レタリ盛スル記
○明春是ヲ見テ東門五色ノ熟瓜ヲヤトテ冒ヲ鉢
ヲ打破唯笛マテ打サカント打タリケレハ太刀
モコラヘスシテ目貫穴ヨリ折ニケリ日昏

○冒ノ鋒ニアテリヨク折アテ、目貫ノモトヨ
リ丁トオレクワト又ケテ川ハヲワフト入ケル
平家物語

○此間ノ御謀反早顕レタリト覺ユ早面々太刀ノ
目貫ノ堪程ハ切合テ腹切レト呼大平記

刀峯近世ハ刀ノ棟トイフニ丸峯菴峯三峰等ヨ
アルナリ

○太刀ノ子ニテ丸ノ肩ヲ頸カケテシタ、カニ
折タリ盛スル記

○長刀ヲ持一タリケルカ峯ハ編木子ノ如ク被切

テ又ハ鋸ノ様ニリ折タリケリ太平記

鉏金 ○一時カ程戦ヒケルニ景高鉏金ヨリ太刀折
盛スル記平家落十一日所ノ軍

○肥前守景家水子装束ノ時ハ無隻布衣ノ時似
舎五位束帯之時ハ諸人嘆之云云常ハ鳥扣ノ水
子無攸袴紅衣ヲ着テ赤ツカノ刀ノマフタキニ
貝摺タル差テ家中ニハ居タリケル古事記
愚安マフタキハ今ノ目貫ナリ

マフタキ ○身ハ一尺ニ寸有ケルテホコノヒルマキシロク
シタルヲホラカイヲメヌキニシタルヲ持テ泰

ル土佐カ藤ノ上ニヲケトリノ俗ヒケル義任記

白く紙の目貫代をカとさけてきてたの部とねらハ

たう子と 祐遺集

筭 見附考

永祿六年
秋葉ノ股ノ
陣取ニ福富
平九工門カ金
龍ノ面指夫
ヒシト云云
面サレハ筭也

愚按上古ハ馬ノ上ニテ一具ユカケヲサシ、こ
馬ノ上ニテ弓ヲモタス人ヲハヲカシキリニイ
ヘリ弓モタス時モ人ニ持スル間ユカケヲ馬ノ
上ニテサスハ何時モ弓ヲトリテ射ヘキタトシ
サレハユカケノ備トナニカモキナト云テ式ノ
アレハユカケサシテハユビキキカスルユハニ

筭ニテサ入シ程ニ腰刀ニサシ腰ヲハナタス
持シリシリ今ハユカケノ式モ取失ヒスレハ
無用ノ物ニナリテ故棄モナリカサリノニニ
テ大造物換見ノ時矢ノ印ニ用ル秘事アリ幾任
朝臣ノ筭ノ枕道中ナトニテカウカイトヲ置ニテ
トテ大夏アルナトイフ皆是枝葉ノイニ三方ケ
原即合戦ノ時石川伯キ守尾張へ使ニ行レシカ
今度打死モハカリカタシ死後軍陳ノユカケノ
備トノ様不知トテ人ニモアナワラレシモ口惜
トテリノ頃美濃ノ土岐殿古実知レル人ナレハ

立高テユカケノ緒トメ様傳受セシムカムハ如
此夕シナミシワカシ

○大納言行成卿ノイマタ殿上人ニテ有ハシケル

時実方中將イカナルイキトウリカアリケニ殿

上ニマイリアヒテイワトモナク行成加カフム

リウチヲトシテ小庭ニナケステハケリ行成イ

トサカスレテトノモウカサヲメシテテカフム

リトリテコヨトテカウムリリテマモリ刀ヨリ

カウカイヌキイテヒニワク口ヒ井ナヲリテイ

カナラニニテ侍ラシタナマチカウホト乱符

ニアワカハキヲコソヲホハ侍ラ子 子ナメ記

○馬ノ上ニテイワモユカケサスハキニ弓モタス

トモサスハシムカシハナワモ馬ノ上ニテ弓ヲ

モタス人モハヲカレキヲニサレハ弓ヲ裁モタ

ス時人ニ持スル間ユカケヲ馬ノ上ニテサス

ハ何時モ弓ヲトリテ射ハキタメニ美人抄

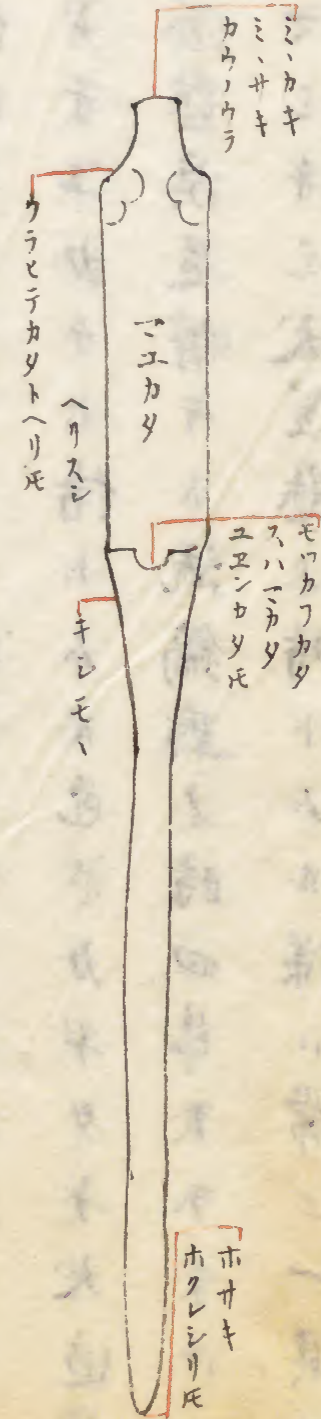
惣シテユカケノ緒トムル色ハカチ夕子犬追物

ノ笠懸具足著テト流鏑馬ノ時四色ナラテハア

ルマシキニ犬笠懸ノ時トムル様ハ常ニ一具ユ

カケノ緒トメニ同昏

行成卿カウカ
イノ一登ス
記日本國廣快
之下ニアルト
同シ



○今ハ昔者近陣ニ春近ト云舎人在ケリ鞠ヲナシ
 キハメテイニシク蹴ケルアル時春近カ後所ノ
 井ノ鑿ニナレカ、リテ互テ善キ女ナトノオホ
 在ケルニ見セントヲモビテ鞘ヨリ勁取取也ニ
 手ノ爪ノ士ニタチ、井ノ上ナレ也ニ四廿十度

ハカリカマレケルヲ人アツマリ真ニ感シケル
 今昔物語

○觶 唐音云觶 許規反和名 角錐童子佩觶 説文

云角觶端可解結者ナリ和名抄

火打袋見附考

○釵ニ付タル錦袋ヲ披見ルニ燧アリ樽自石ノカ
 トヲ取テ火ヲ打出シ是ヨリ野ニ付タレハ風忽
 ニ起テ猛火夷賊ニ吹覆凶徒忽ニ燒亡又是ヨリ
 天鼓雲釵ヲ草薙釵ト名付タリ彼燧ト申ハ天照
 大神百玉ノ末ノ帝マテ我貌ヲ見奉ラントテ自

燧
付竹
硫黄

御鏡ニ移サセ給ケルニ初ノ鑄造ノ鏡ハ紀伊国
日前宮御坐第二度ノ御鏡ヲ取上テ御覽レケル
ニ取ハワレテ打落レ三ニ破ルヲ燧ニナシ玉
ハリ彼ノ燧ヲ錦ノ袋入レ叙ニ付ラレタリケル
ナリ今ノ世ニテモ人ノ腰刀ニ錦ノ赤皮ヲ下ケ
テ火打袋ト云ハ是故ニ我祖母能シテ火打袋アリ
付シ袋ナリ舞采ノ採葉老ニ茶袋トテサヤニ付
テサリル是ヲサヤト云同シキモノニ
盛衰祀神鏡神冥部入

○田滿院大輔燧付竹硫黄ナト用意シテ燧袋ニシ

ワラヒ入秋ヲ修行者法師ニ造リ成テ山門ハ社

思ヒ登レ盛スノ記田滿院大輔登山

○ヒウチ袋ハ四十已後サケタルタハシフレトモ

ハレノ時ハシニシヤク在ハシヲトニ大キナル

ハワロシ去ナカラ宿老入道不苦宗五記

○扱鞘ニ十金ニテ打クニミタル刀ニ帛ノ皮ノ火

打袋サケ太平記公家武家榮枯

○愚信付竹ト云ハ今世ニイフホクチトイフコシ

○硫黄今世ニイフ付木ト云フコホクチニハ竹ノ

コノ自然ニ朽タルヲムカシハ用ヒシト云田舎

ニテハ今モ用ルコ賤人尽ノ繪ニエウウハハキ

アリ古諺ニ山伏ノ腰ニ火打付竹宝螺貝付シト
イフ

○解開其姨倭比賣命之所信囊口而見者火付有具

○裏於是先以其脚刀前揜以其次火打而打也火著

向火而燒退カエリ也皆切滅其国造トコ古事記

○青砥丸工門夜ニ入テ也任シケルニイフモ燧袋

ニ入テ持タル錢ヲ十文取ハクニ滑川へ落シケ

ル太平記

○心ヲ祭テ又也家ノ師直入道、常師泰入道、勝

トテ裳ナシ衣ニ提鞞サケテ降人ニ成テ也ケレ

ハ見ル人毎ニ瓜彈シヌ太平キ師冬自害

○按ルニ採桑老ノ斥ニ茶袋トテサケサヤニ付ル

是ニ也家ノ指サカニ着付テサケサケサヤト云

銀匱 見附考

愚按今世ニ銀馬代ニ太刀ナリト云ハ誤レリ將

軍家即代替之時上古例トシテ和州多武峯惣代

銀匱一振献之ヲ判ヲ見ルニ今イフ白鞆ノ刀

一尺八九寸許銘百刀袋ニ入箱ニ入タリ太刀ト

イフハ將ノ刀ニテ銀匱ハ白サヤノ刀ナリ

○塔供養無為ノ事賀シ申サレ沙金十兩銀匱一腰

○ 漆借五十反ヲクリ物トス東カハミ

○ 銀叙一腰錦袋沙金百両日各

○ 寛治五年八月十四日美家朝臣許ニ有山鳩居於

渡殿欄上美家成恐於群鳩更入寢屋居中長押上

自口中落掃ノ實三粒而死去畢又美家ノ云ク是

八幡之即使欲近コク可有慶賀之事定山事歟

仍以銀叙一腰駿馬一疋十五日晚使助道惟定奉

八幡云云古事記

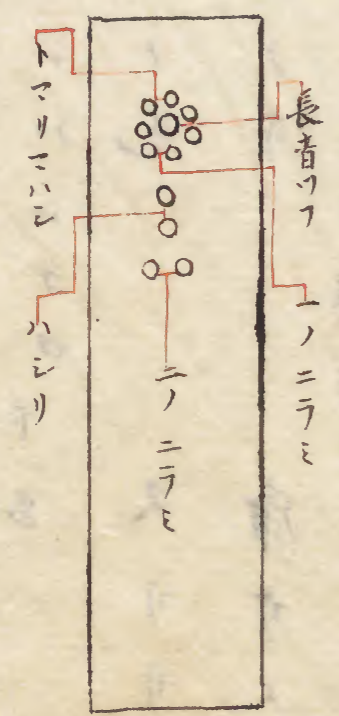
○ 天平靜ヒワノ奇端ナレハ引中物セヨトテ銀叙

三浪被物ト重田成ニ夕ヒテ宝叙ヲハ前載ニ宗

ト玉ハル春日ノ神殿ニワ納メラレケル太平記

自伊也進宝叙

柄較



子ヤニハ上品
谷サメ
アイノ物
ハヒコ

子リメシ

背子リメシ

刺子リメシ

ハウハ

カイラキ

カシセキ

シモフリ

背カイラキ

地ナシウシ子ノ

川サメ海子

ナシハシコロ

下品

ヒハラ

旦那尾

スリサメ

碁カシセキ

カノ子

席サメ

アエサメ日本ニモアリ駿河沖津ナトニアリ

キクト子日本物

ヒタ子コロ

○

鞆刀鞘用之日本信所作之又云梅華皮下学集

鞍皮可為刀鞘又名淵名泣涙成珠者下学集

